

都合の悪い情報を隠してきたマスコミ 多様な情報に触れ、批判の目を養うこと

マスコミは社会において重要な役割を担っているが、商業主義に偏り、既得権益を守ろうとしたり、都合の悪い真実は隠そうとしたりして、様々な問題点が露呈してきている。

印象操作や情報操作を行っている

最近の日本は様々な問題が山積しているが、マスコミの問題も非常に重大である。

「マスコミは第四の権力」という話をよく聞く。立法、行政、司法に加えて、権力を監視するマスコミは重大な役割を果たしていると言われる。

問題なのは、彼らが国民の審判を受けない点である。

安倍元首相に対する執拗な攻撃、そ

の安倍元首相が明らかに暗殺されたに

も関わらず、「暗殺」という言葉を一切使わない行為、安倍元首相暗殺の原因を統一教会の問題にすり替え、なぜか自民党へのバッシングを続けていることも記憶に新しい。それに加えて、昨年

から続く兵庫県知事に対する際限のないバッシング、今年の夏の参議院選が

近づくにつれて行われた参政党へのバッシング等、挙げればきりが無い。

その一方、現政権は、中国政府の出張所かと思われるほど、中国と中国人を優遇しているが、マスコミは全く攻



オールドメディアの衰退が叫ばれている。信頼性の向上が課題。

撃しない。それどころか、参議院選挙で自民党が大敗し、現政権の危機が訪れると、「石破内閣の延命を求めるデモ」の報道を大々的に行っている。

このような状況で一番得をしているのは誰か。中国である。

つまり、中国に都合の良い人物であれば「良い人物」であると報道し、中国に都合の悪い人物は、問題をでっちあげて執拗にバッシングするのである。問題は、それによって、政局や政策が

変わってしまうことだ。安倍元首相が
高い支持率をもっていたにもかかわら
ず、バッシングに耐えかねて辞任した
し、一方石破首相は選挙で2回も大敗
しているのに、マスコミの擁護によっ
て延命されている。

面白いことに、最近、韓国のYon
hapが、現在、韓国で全く同じことが
起きていると話していた。マスコミが
中国を礼賛し、大学には中国人留学生
だらけ。中国依存から脱却しようと試
みる勢力に対しては、事件をでっちあ
げてでも徹底的にバッシングをする。

中国は、世界中の国々に対して、侵
入しやすいところから入り込み、その
国の国内を牛耳ろうとしている。多く
の国が大学、司法、マスコミに付け入
る隙があり、そこに上手に侵入するこ
とで中国の利権を拡大しようとする。
日本も、まさにその三つから中国に侵
略されている。

最近、欧米はその深刻さに気付いた。
トランプ大統領がハーバード大学の中
国人留学生を一掃したことは記憶に新
しいし、イギリスでも中国人留学生は
激減したという。中国の「サイレント

インベージョン」に気づいた彼らは、
遅まきながら対策を始めたのだ。

ところが、日本は、「ハーバード大学
から排除された中国人留学生を受け入
れる」と発表した。親中政権の面目躍
如といったところだろうか。

大学とマスコミを抑えればその国の
言論を支配できる。日本は、第四の権
力を中国に明け渡してしまった。彼ら
は日本国民の審判を受けることなく、
気に入らない政権を潰したり、目障り
な人間を社会的に殺したり、気に入っ
た政権を延命させたりできるのだ。

忍び寄る脅威の認識を

このようにマスコミが外国に支配さ
れてしまった後、我々にできることは
ネットで世論を盛り上げることである
が、それに対してもマスコミは敵対心
を露わにしている。兵庫県知事をバツ
シングしても民意を覆せなかった後、
彼らは一斉にネット規制の必要性を説
き始め、政府はネットの自由な意見交
換を規制する法案を閣議決定した。言
論の自由がなくなり、中国に不利なこ

とが一切できなくなった国、中国人が
一番優遇される国は、既に中国と言え
るのではないか。最近も、従来中国か
らアメリカに大量に密輸されており、
アメリカが最も警戒している薬物フェ
ンタニルの密輸施設が名古屋で発見さ
れたが、それも殆ど報道されず、日本
政府の取り締まりも無きに等しい。

米中戦争が盛んな機運を利用して、
今日日本に巢食った中国勢力を一掃しな
いと、日本にはウイグルやチベットの
ような未来が待ち受けている。

我々にできることは何か。まずは、
マスコミが徹底的に叩いている人物を
調べ、叩く根拠が薄弱な場合は、その
人物を大いに応援することである。ま
た、そのようなマスコミに同調する人
物、政党をよく覚えておき、絶対に投
票しないことである。マスコミがある
人物を不自然に叩くとき、多くの場合、
その人は日本のためになる人物である
ことが多いのだ。

幸い、日本は、まだ日本人が大多数
を占めている。今のうちに、マスコミ
を無力化しないと、悲惨な未来が待ち
受けている。

(増田千代)